

正会員  
京都大学大学院工学研究科  
都市社会学専攻 助教授  
**木村 亮**  
KIMURA Makoto



## 船でアフリカ初上陸

今回と次回は昔話を書いてみたい。私がアフリカの地を初めて踏んだのは22年前、サハラ砂漠を日本人6人で北から自転車で縦断したときである。フランス・マルセイユからフェリーでアルジェリアのアルジェに上陸した。24時間の船旅で予想より揺れ、船内は体臭と嘔吐物の臭いが充満していた。初めてアフリカの大地が視界に入ったとき、異常に興奮していた。カスバのある地の果てといわれる町アルジェ。港で食べたいわしの丸焼きがおいしかった。

アルジェリアは、最近までイスラム原理主義過激派によるテロが活発化していた。外務省が出している海外危険情報では、「行ってはいけない国」であった。1962年にフランスから独立し、3年後の軍事クーデター以後は、1989年に憲法が改正されるまで独裁国家の社会主義国であった。私が上陸した当時は、市場に物が出回っておらず、食料調達に苦労した。スーパーの棚には小麦粉とビスケットしかなかった。



70kgを自分の足で漕ぐ

## スクーターを足で漕ぐ気分

アトラス山脈をバスで越え、サハラ砂漠の玄関口の町ガルダイアから出発した。アルジェリアのオアシスはエルゴレア、インサーラ（世界一暑い町）、タマンラセットの3つだけである。国境まで1,700km、最終目的地のニジェールの首都ニアメーまで3,100kmの旅であった。少しましな地区には3つの町の名しかないが、間違っているわけではなく、それしかないのである。水と食料の補給に苦労した。

予備を考えて1日に使う水の量は2ℓまでで、20ℓの水を積んでいた。初めのうちは「24時間後に水がきれいになる薬」をタンクに入れて飲んでしたが、めんどくさくなってやめた。徐々に慣らせば大丈夫と思っていた。自転車の重量と荷物を合わせ70kg強、普通の人ではバランスを失いとても乗れない。まるでスクーターを足で漕ぐ気分である。野宿に自炊の「ヤドカリ」生活である。サハラ砂漠といっても、舗装道路の上を走った。ただし、簡易舗装で新しく舗装した区間も2年ともたず穴ぼこだらけになる。



360度の地平線を見つめて



土の家とナツメヤシのあるオアシス

## とろけるリップクリーム

私がサハラ砂漠を旅したとき50年ぶりの異常気象で、アルジェリア国内では昼間は30度強と涼しかった。ただ寒暖の差は激しく、夜は氷点下近くの寒さに震えた。国境に近づくとつれ昼間の気温は45度近くになり、道路の照り返しにより体感気温は60度以上に感じられた。日中は走れず、道路下の1メートル四方のカルバートの中で6時間休憩していた。影がそこにしかないから、あとは少し伸びた自分の影だけ。このときが一番つらかった。暑すぎて頭がもうろうとし、日記を書くことも寝ることもできなかった。

どれくらいの暑さだったか。唇の渴きを防ぐため、持参したリップクリームは溶けて液体になっていた。10本のろうそくが1本に。熱射病になることと、フィルムが駄目になることが怖かった。5月になると砂嵐が来るということで、2月と3月を走行期間に当てたが、5回も砂嵐にあった。ひどいときはテントを張って通り過ぎるのを待った。360度の地平線を見ながら1日走ったこともある。まったく変わらぬ景色。車の1時間を1日かけて走る旅。

## 紙よりも杖を持って

キャンプ時の注意が2つある。1つはテントを設営するとき、石が転がっているからといって、むやみに素手でつかまないこと。もう1つは、テントの外に靴を出して寝るときは、朝再び履く前に必ず逆さまにして叩くこと。これらはすべて、サソリ対策である。



夜行性のサソリは、昼間は狭いところに入る習性がある。はさみを構え、尾の部分をつり上げて毒針を前に



砂紋が綺麗な砂丘にて

突き出す姿は恐ろしい。600種余りいるサソリがすべて猛毒の持ち主ではない。刺された部分は2倍に腫れる。蜂のようにショック死する場合が多いとか。日本にも沖縄と小笠原に2種類のサソリがいるのをご存知だろうか。

隠れ場所のない砂漠で「うんち」をするときの話。必ず長い杖のような棒を持参し、しゃがむところを中心に半径2メートルの砂の表面を棒で掘り起こす。毒へび対策である。「砂へび」と呼ぶ猛毒のへびが、日中活動すると聞いていた。このへび、砂の中に常に飛びかかれる体勢で潜っている。目と鼻孔の間にある赤外線探知器官だけを出し、小動物が放射する赤外線から温度差を識別して飛びかかる。手をかまれたら、即座に手を切り落とせと現地の人に言われた。

想像してみてください。しゃがんだときにお尻をかまれたときのことを。どこから切ればいいのですか？ 食器も砂で洗う生活なので、紙がなくても砂で拭けばよい。紙よりも杖を持って排泄場所に行くのです。 アフリカ奥深し。



サソリとともに“グラント”ホテル